

## まちづくり大賞決定 今年度からはじめます

加西市は、公民連携と市民参画によるまちづくりを進めています。

景観形成・環境創造、地域活性化、都市基盤整備などの分野で、多大な貢献をした模範的な団体や個人を表彰する制度を創設しました。審査の結果、この度、次の3団体に「まちづくり大賞」を贈ることを決定しました。



アラカシをはじめ、約50種類の様々な樹木を立体的に植え、災害に強い森づくりを行いました。



11月1日グランドオープン。加西市の人口よりも多い、5万人を超える来場者で賑わいました。



11月2日、第4回ぼたん鍋大会開催。都市と農村の交流が行われました。(左は交流館)



地域の民話「女切峠」を劇化。地域の人々で演じ、3月30日の「交流館」竣工式で初演。

### ■イオン加西北条ショッピングセンター

イオンリテール(株) (代表取締役社長 村井正平氏) は、イオン加西北条ショッピングセンター建設工事において、景観や環境に配慮し、水辺を活かしたアメニティを創出するなど、環境最先端のまちづくりに貢献。また、地域住民約1,300名による13,000本の植樹祭を実施した。

イオン加西北条ショッピングセンターが11月1日にグランドオープンしました。中川市長が今回の開発で特に力を注いだのは、環境や景観を重視することでした。それを受けてイオン側にもグラスパーキング(芝生化駐車場)・屋上緑化・壁面緑化・ソーラーパネルの設置(予定)などの環境対策を講じていただきました。また、イオンの費用負担で交通広場(ロータリー)を整備し、外周道路を舗装するなど周辺整備にも協力していただいています。

市の職員として、一生に二度とない大きなプロジェクトに携わることができ、またとない経験となりました。市民の皆さんからの意見を参考に、市長の施策の要素を反映させながら取組みイオンから提供を受けた公園と、ショッピングセンター全体が、市民にとって魅力ある空間になればと願っています。



都市開発部都市計画課 開発担当 堀中伸介

### ■原始人会

原始人会(代表 大豊正吾氏)は、平成12年の設立当初から都市農村交流を図る様々なイベントを数多く実施。どぶろく、猪鍋、甘酒ジェラートなどを商品化し、地域の活性化に多大なる貢献をした。

無情にも少子高齢・過疎が切迫する加西最北「万願寺」、その地に活性化を掲げ、20~70代で構成する町おこしグループの活動も9年目を迎えました。私たちは、市を始め地元・近隣等多くの皆様の暖かいご理解とご協力を支えに、都市と農村をつなぐ様々な交流事業を展開して参りました。その活動を通じ多くの出会いが生まれ、ネットワークの広がりが更なる繋がりや支援に発展し、今春には活動の拠点となる「交流館」の完成・NPO法人格の取得という形になりました。

「こども達が自然や文化・芸術に親しめる地域」、「若者や団塊世代が1ターン・Uターンを望む魅力ある地域」、「お年寄りが生甲斐を感じ、安心して暮らせる地域」、つまり、三世代が楽しく暮らせる「地域が家族の町づくり」を目指し、焦らず自然を楽しみながら一歩ずつ誰もが気軽に参加頂ける活動を進めます。今後とも皆様の応援をよろしくお願ひ申し上げます。



原始人会 会長 大豊正吾

### ■北条の宿はくらんかい実行委員会

実行委員会(代表 水田加代子氏)は、10月18日、19日に地域おこしイベントを開催。市内外から約25,000人が訪れ、地域の活性化に多大なる貢献をした。

「北条の宿はくらんかい」は、大きな盛り上げの内に無事終わることができ、これもひとえに地域の皆様方、各種団体、会社、事業所の皆様の格別のご理解とご協力のたまものと心から感謝いたしております。

通りを歩き来する方々の旧交を温めあうお姿、また、初めて北条のまちを歩く方々など、大勢の皆様方に歩いていただくことで様々な出会いと発見に満ちた二日間となりました。広がり深まる交流の輪は、地域の持つ可能性を開花させるまちづくりの原動力となるものと確信いたしております。

実行委員会では、北条町を拠点とした地域のにぎわいと更なる広がりを求めて、これからも取り組んで参ります。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



北条の宿はくらんかい実行委員会 委員長 水田加代子

### 「北条の宿はくらんかい」の開催経緯

加西市北条町の旧市街地周辺は、かつて山陽・山陰を結ぶ街道の宿場町として栄えました。しかし、大型店舗が進出しはじめた昭和50年代ごろから、この地域の空洞化が進み、人の往来も少なくなり、店舗が激減し、次第に衰退の一途に。この現状を憂う地域住民約20人が貴重な地域資源の活用と活性化、町の魅力の再発見を目指して実行委員会を結成。北条地区内の3寺(大信寺、西岸寺、妙典寺)と、街道沿いにある約30の町家や空き店舗の協力を得て、「北条の宿はくらんかい」を開催しました。

二日間で、実に加西市民の約半数の25,000人が訪れたことは大きな喜びです。

今回限りで終わらせるのではなく、継続をしていくことが今後のまちの活性化につながると思います。まちに活気を取り戻すためには、市民参画で地域にある資源を最大限に活かすことが最も重要で、イオンがオープンしたことは、地元小売店にとっては脅威ですが、反面、ここにしか無いものを再発見し、それをPRする中で北条のまちの素晴らしさを知ってもらい、大型店舗との共存を図っていきたく思います。



地域振興部ふるさと営業課 北条の宿はくらんかい担当 吉川雅人

### はくらんかいブースの一画で菜種油からBDF生産実験

北条の宿はくらんかいで、市民グループ加西ニューピープル(小林一仁代表ほか40名)が、菜種油からバイオディーゼル生産実験をおこない、展示しました。加西在住の外国人(インドネシア、ベトナム、南アフリカ共和国)の他、見学に来た日本人も加わって実験が行われました。

これは、加西ニューピープルが提案した加西市ため池を活用して「藻類からバイオディーゼル生産」しようという試みです。



まちなかに巨大な傘(西村正徳さん作)も出現。通りは多くの人で賑わいました。



まちの宝を展示した北条まちづくり協議会ブース前。語らいの風景がそこかしこに見られました。



築180年以上の古民家(後藤篤弥さん宅)で、地元出身の南画家田能村小斎の作品を展示。



最終日、西岸寺本堂で、播磨農業高等学校の生徒による播州歌舞伎「義経千本桜」が演じられました。



加西在住外国人と彼らが製造したBDFを持つ中川市長。

【問合せ】 経営戦略室秘書課 ☎48701